令和8年度　第2回佐久市介護保険事業計画等策定懇話会　議事録

日　時	令和8年 10 月 29 日(木) 午後1時30 分～午後2時40 分	場　所	佐久市役所　8 階大会議室
出席者	○佐久市介護保険事業計画等策定懇話会委員 （大井 美由紀委員、菅原 敏明委員、羽毛田 香里委員、今牧 健之委員、小嶋 秀文委員、小林 光男委員、飯嶋 夕子委員、相馬 喜代子委員、竹内 まさ子委員） ※島田 千穂委員、松本 光男委員、柳沢 喜美子委員、櫻井 美智子委員は欠席 ○事務局(工藤福祉部長、高齢者福祉課 友野課長、吉江課長補佐、 小泉係長、佐々木係長、吉澤係長、山岡係長、杉浦 臼田支所　市川課長補佐、浅科支所　井出係長、望月支所　小川係長）		

会　議　・　協　議　等　事　項

事務局	―令和8年度 佐久市介護保険事業計画等策定懇話会―
	1　開会
菅原会長	2　会長あいさつ
	3　審議事項 （1）　第10期計画の方向性について ア　老人福祉計画について（資料１） イ　介護給付費について（資料２） ウ　地域支援事業について（資料３） エ　介護保険料について（資料４）
	【質疑応答】
委員	**○資料1　ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯住宅補修等整備事業（2ページ）** 高齢者世帯住宅補修等整備事業について、民生児童委員から対象者の選定の難しさが指摘されていると記載があるが、どういう状況か。
事務局	民生児童委員の高齢者実態調査、見守り活動の中で住宅の補修に関する要望をとりまとめ、佐久建設労働組合のボランティアによって実施している。独居の高齢者、高齢者のみ世帯が対象で、要望を上げていただく。住民税非課税世帯であること等の要件があり、市で受付後、補修の内容を確認した上で対象になるか判断している。
委員	**○資料1高齢者にやさしい住宅改良促進事業（2ページ）** 高齢者にやさしい住宅改良促進事業について、改修内容は市で判断するのか。

事務局	高齢者にやさしい住宅改良促進事業では、在宅で生活できるよう居室や浴室、トイレ等改良する場合に補助金を交付している。対象者の要件はあるが、上限 70 万円で 1 割負担となる。市で受付後、改修の内容を確認した上で対象になるか判断している。
委員	**〇資料1　生きがい活動拠点の運営事業（1ページ）** 老人福祉センターの利用者数の分析で、全体としては減少傾向という説明であるが、資料では令和 6 年度から令和 8 年度で人数が増え事業傾向も上昇になっているが、どういう状況か。
事務局	コロナ禍で減少した後、現在は回復している施設もあるが、全体としてみると利用者の減少傾向にあるということである。
委員	老人福祉センターは将来的になくなるのか。
事務局	施設の老朽化が進んでいる一方で、利用者は増加している状況である。現在は安全に利用できるよう修繕を行い、施設を維持管理している。 介護予防施設については介護予防事業を民間で実施しているため、令和 8 年度で用途廃止予定である。
	（2）　高齢者プラン（骨子案）について（資料 5）
	【質疑応答】
委員	**〇資料5　基本理念（P36）** 認知症にやさしい地域づくりと記載があるが、認知症にならない地域づくりをしてもらいたい。認知症にならないためには、どのような方針で行っていくのかという姿勢が必要だと思う。
事務局	認知症に関しては、予防や早期発見の取組を行っていくが、認知症になったとしてもご本人が出来ること、活躍できることを探しながら暮らせる共生社会を目指していきたいと考えており、計画として作成していく。

委員	前期高齢者や後期高齢者という年齢が決められているが、定年が 65 歳となり、70代でも元気な人が多い状況であり、この規定がこのままで良いのかと思う。これから施策を行う上で、これも考えながら行ってほしい。 また、社会参加を促すことが書かれていて良い。自分も区の役員をやっているが、皆が社会参加すべきだと思う。高齢者が活躍できる施策を大切にしてほしい。
事務局	市では、お達者応援団育成塾を実施しており、介護予防など学んでいただいて地域で活躍できる方の育成をしている。今後も力を入れていきたい。
委員	**〇資料1　高齢者外出支援サービス事業（P2）** 高齢になると移動の足が重要と考える。市でも最近はデマンドタクシーなど実施していただいている。高齢者外出支援サービスは事業継続となっているが、社会参加をするための取組にもなると思うので、今後の考えを教えてほしい。
事務局	高齢者外出支援サービスは、65 歳以上の一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、非課税世帯等の要件があり、月 4 回、片道 500 円で提供している。デマンド交通等の公共交通機関を利用できない方の移動の支援として継続していく。
委員	市の中でも、人口の多い地域と減っている地域があるが、これを一律に考えているのか。過疎地域という問題も大きくなっている。
事務局	日常生活圏域毎に地域包括支援センターを設置している。圏域ごとに地域課題の分析をし、包括を中心として住民に役立つ方策を地域住民と共に考える仕組みを構築している。
委員	買物に困るという高齢者の声を聞く。これまで買い物をしていた店で同じものを買いたいという希望もある。移動販売が充実するとよい。
事務局	先日新聞報道されたが、アプリで注文したものが配送される佐久ケーブルテレビの「サクッと商店」が実証実験中である等、民間での動きがある。

事務局	（3） その他 計画に関するご意見について パブリックコメントについて 第3回懇話会について 12 月 24 日(木) 13:30～ 10 閉会 以 上